



「第二次日本経穴委員会」便り

～第14回 江戸幕府鍼科御典医の鍼灸奥義書『鍼灸枢要』～

第二次日本経穴委員会・作業部会委員 かとりとしみつ 香取俊光

筆者は、中国や韓国の鍼灸に対する動向に圧倒されっぱなしであるが、日本の鍼灸の底力や深淵は、江戸時代以来の膨大な鍼灸古典にあると信じている。

経穴委員会でも日本の鍼灸古典のデータベース化や発掘の話題が出て、筆者も研究の意欲を大いにかき立てられ、今回手つかずであった江戸時代の鍼灸書に踏み込んでみた。

江戸時代では、資格・免許制度で欠格事由がなく、治せる者が医師であった。医師の系譜は、医師の子孫・弟子、経験や独学で治療できる者などで、その中で特に著名・優秀な治療家が幕府に登用された(医員)。医員の出自は、朝廷の医官・武士・奥坊主・藩医・町医・町民・神官・社人・寺僧・盲人と多方面にわたっていた。このことも、現代日本の鍼灸の裾の広さや深さにつながるものであろう。

鍼科典医(奥医)がどんな知識や鍼灸の世界観を持っていたのか、その一端を佐田玉淵たまがはら房照ふさてる(道故みちかた, 1670～1756年)の『鍼灸枢要』¹⁾を通じて紹介しよう。

佐田家は、伊勢国(三重県)の郷士から尾張光友の典医、幕府の鍼科典医となった。本書の著者である房照は分家3代で、実は拓殖八郎兵衛政次の次男であった²⁾。死亡年齢は87歳³⁾と91歳⁴⁾の2説があり、本書巻末の識語に1670年

(寛文10年)正月12日生まれとあることから逆算して87歳と判明した。

房照の生涯は、29歳の1695年(元禄8年)、綱吉に初見、1697年(元禄10年)、家督小普請、1699年(元禄12年)、奥医師(典医)、1709年(宝永6年)、綱吉薨御により寄合医、『鍼灸枢要』著(43歳)、1715年(正徳5年)奥医師復職、1744年(延享元年)医員辞職、1756年(宝暦6年)、閏11月2日に87歳で死亡し、菩提寺は池之端(下谷)正慶寺であった。

本書の解説を篠原孝市氏がされており⁵⁾、1712年(正徳2年)の写本で、自序3葉、本文46葉、合計49葉、自序は1709年(宝永6年)に書かれているとし、さらに次のように書かれている。

「本書の序や巻頭におかれた〈愈穴大法〉によると、房照は手足の五要穴と腹肚の穴を重要視している。とくに手足の五要穴を重んじ、そのうちでも、とりわけ府病における各経の愈穴、蔵病における各経、都合二十四穴を要としている。また同時に原穴も重要であると述べている。本書は前半で重要な経穴と経脈流注の解説を行い、後半では要穴と刺鍼上の注意事項、同身寸と骨度法、灸法、鍼灸の禁忌、造鍼、経穴の部位と主治症(四十四穴)、上下あるいは五蔵の観点からの刺法、雑症治法について述べている

が、後半の叙述には、いささかまとまりに欠け、矛盾を感じる部分もある」。

目次はないが、構成は39の項目からなり、そのいくつかの内容を紹介してみる。

十四経

解剖・流注と所属経穴 (部位・取穴法はない) が記載されている。経脈の配列は以下のようで、どんな観点から並べたのか疑問が残った。経穴は354穴で、誤字や省略、関衝が関冲等と「衝」と「冲」が違うといった若干の相違点にとどまっている。____ や () は筆者の注である。

手太陰肺之経 11穴

手陽明大腸之経 20穴

手厥陰心包之経 9穴

手少陽三焦之経 23穴

関冲 (関衝カ) 肩窵 天窵 禾髎 (和髎)

手少陰心之経 9穴

手太陽小腸之経 19穴 肩外 肩中

足厥陰肝之経 13穴 太冲 (太衝カ)

足太陰脾之経 21穴

足少陰腎之経 27穴

足陽明胃之経 45穴 氣冲 (婦衝カ)

足少陽胆之経 43穴

客主 陽陵 (風市は含まれていない)

足太陽膀胱之経 63穴

厥陰 三焦 大腸 小腸 中膈 白環

附陽

督脈 27穴 壅門

任脈 24穴

十五絡 (「」は内割書)

肺列缺 「手ヲ交ヘコマヌケハ頭指ノ尽ル末也」

針一分

大腸偏歷 腕後三寸アリ 針二分

心包絡内関 「掌後腕ヲ去事二寸ニアリ」

針三分 (以下中略)

脾大絡大包 胸脇 中九肋ノ間 針三分

督脈長強 絡ノ骨端ニ有 針二分

任脈尾翳 ■■■■也 針二分

右十四経ノ枝ヲ絡ト云

造針法

「入門云昔黄帝…」と始まり『靈樞』九鍼十二原篇の内容が記されている。本書にいくつか出てくる「入門」が『医学入門』かは断定できないが、岡本一抱『医学入門診解』が本書の自序のかかれた1709年 (宝永6年) に刊行されているのが興味深い。

五臓之針分別

運動器疾患以外の精神病や痘瘡・麻疹等まで対応している。

○大椎ノ上一寸五分ウツフイテ刺ス中気頭ヲ振ニヨシ亦狐着狂乱スル者ニ吉 針一分伏テ刺ス不功ニテ不刺

○胛骨ノ上肩井ヲ刺テ気ヲ失フ者ヲ治ス針一分伏不功ハ不刺

○大椎各二寸半痘瘡麻疹治ス針 肩先へ開イテサス口伝

参考文献

- 1) 佐田玉淵房照. 鍼灸枢要 臨床鍼灸古典全書. オリエン出版 1990;21:175-277
- 2) 香取俊光. 江戸幕府の医療制度に関する史料(8) 鍼科医員佐田・増田・山崎家『官医家譜』など. 日本医史学雑誌 1996;42-44
- 3) 官医家譜 (東京大学史料編纂所所蔵)
- 4) 高柳光寿他編. 新訂 寛政重修諸家譜. 続群書類従完成会;20:39-40
- 5) 篠原孝市監修. 臨床鍼灸古典全書. オリエン出版 1990;19:27

(〒371-0805 群馬県前橋市南町4-5-1)